

九月廿四日 (日)

中興石力賜辰  
書真 頁 志 之 方

○五ノ執日

朝待朝一更ニ  
出果 模標  
長心 算ナリヤ  
第ナリ心 算ナリヤ  
イナカ 止心 廣  
くん 平リ

本原 志 之 業 秘

許ナク

敵方 力 從 果 (日)

外 (日) 増加 する

更ニ 近 (日) 外

勢 勢 方 國 模 標

(日) (日) (日) (日)

2/6





Handwritten scribbles or marks on the right page.

城市科目 (C)

④ 大町の 狩猟の 昆虫

世帯宛  
追記、TKO } 概算  
= 情報化 江戸 歩き方  
古領 200

古領、割課 不房

← 追記 追給

【探査 → 石見 追  
給付機

⑤ 利根郡内、外

追記 / 利根郡内、外  
11月 = TK 2  
古領 200

⑤ TK 8倍 追給 不房

一寸位 / 俵 5000

⑥ AH / TK 追給 不房

A, B, SA, 9617 } 356%

追, K, A, B, A, 1507

3倍 中 追 1 追

A, B, A 600 追

山	44	30	150	120
石	57	200	120	} 30%
山	59	88	228	

十月二日 (D)

十月二日

十月三日 (C)

本朝は至極静寂なり  
 〇六二〇 奥武島 敵  
 上陸、津川方面  
 上陸、津川方面  
 川方面并津川、防線  
 既平指導ヲ万心  
 夕刻、第陸二隊進  
 待機位置ヲ表及武  
 三隊ハ  
 津川 隊ニ進出スル  
 三三二下 敵兵  
 警備隊司令官  
 三三三 敵兵

拾月四日(水)

又吉古浦地中尉

二念心 相違

蘇峰之

北投書院 伊

一右司合 命

接下

五月三十一

夕到 羊夜 出夜

津美山 二 明

一 旭 出 中 交

松島 中 野 子 合 漢

拾月五日(木)

五月三十一

二念心 津美山 出夜

一 右司合 命

十 出 夜 二 出 夜

一 右司合 命

接下

早 司 合 命 之 凡 可

出 夜 二 出 夜

一 右司合 命

接下

十月六日(金)

一、北 坂一歩  
 二、北 坂一歩  
 三、北 坂一歩  
 四、北 坂一歩  
 五、北 坂一歩  
 六、北 坂一歩  
 七、北 坂一歩  
 八、北 坂一歩  
 九、北 坂一歩  
 十、北 坂一歩

十月七日(土)

1. 林中西側  
 2. 一五〇方地  
 3. 石嶺北側  
 4. 平塚大倉古堀  
 5. 五二〇方地  
 6. 一七〇方地  
 7. 一五〇方地  
 8. 一〇〇方地

add

十月八日(日)

五月三日

今日午後二時  
お茶会

天候不測  
お茶会

夕刻 午後五時

名簿に列し一切  
準備完了

夜半 準備 天候不良  
お茶会見念ふ  
お茶会

十月九日(日)

五月三日

天気悪く  
夕刻より

お茶会  
月曜より

五月三日

梅は待たず  
お茶会  
お茶会  
お茶会

お茶会  
お茶会





十月十二日(水)  
上野巨碑  
柳川長澤の  
許に批道  
柳川長澤の  
ゆきききき  
悠遊に悠  
渠、常の梅  
軍服のゆ  
橋身のゆ  
はあしそこの

十月十三日(木)  
行の必至  
新念す  
○の北三  
天候良し  
茶字の  
持せざる  
午頃、常像  
正に批道し  
はに刻舟  
はに刻舟

225

十月十四日(土)

百草池す

蒲地古池

町首各朝夜

の伊勢方支援

と接海す

×

夕刻より晴る

割廿三三〇〇

より梅に接し

待つこと久し

車馬核飛車

十月十五日(日)

廿

立方に再入山

本軍者日也去

号と押根に

批し三十九日

降、割舟行

巨振打せしめ

協力係移す

(三七〇三〇〇書)

Handwritten scribble or signature

十月十六日(日)

○ 五三三

任敵の軍の  
お悔業を依  
頼し出たり  
劃舟行へ大  
きくするや身心  
爽快を感ず  
徳業をえありし  
準師軍功具  
的ニ之を予す  
帆川毛五〇斤  
野菜若干

十月十七日(月)

○ 水三〇  
B部隊本物屋  
取備は花し  
敵部隊あり  
○ 行軍北伐企圖  
早急しあり  
○ 視察に花し初作  
不良  
忽ち艦砲撃  
さうし  
○ 持ち品私物多  
し食料費減る

多し

山事... 山事...

共帰る... 共帰る...

移動せし... 移動せし...

勢運せし... 勢運せし...

導師... 導師...

口... 口...

夜... 夜...

殆... 殆...

極... 極...

十月十九日

し... 無...

帰達... 帰達...

近... 近...

巨... 巨...

甘... 甘...

持... 持...

慶... 慶...

皆... 皆...

Handwritten signature or mark

十二月二十二日 (9)

本日の日記

由紀子羊年  
日の命日子り

五月二十一日

連絡の物  
平定に  
上原

十二月一日 (8)

山根

階にあり

園子

正世

内志

夕刻

し更に

三一回

り研

同年

に本

係

長

九



十月廿四日 (水)

○ 三廿二十九

相違の事

基の事

此の事

此の事

此の事

此の事

此の事

十月廿五日 (木)

Handwritten scribbles



巨 砂 根 軍 口  
 批 運 じ 博 師  
 米 の に 男 心  
 夜 梅 園 子  
 無 光 博 師  
 古 名 又 和 山 子  
 用 兵 若 平  
 運 兵 し 平 子  
 奥 協 以 石 島  
 中 幸 博 師 9

我 幸 白 了 次  
 及 身 信 口  
 煩 子 字 塔 色  
 待 走 所 功  
 幸 其 大 子  
 正 堂 子  
 B 部 隊 更 口  
 旧 階 地 に 取 付  
 同 中 屋 雨 口  
 浸 中 其 口

222

Handwritten scribbles or marks.

和局の便 世帯十

子と倉科

2. 下川 島島集案ノ

輸送困難 甚多

3. 陸軍ノ 運送 理解

明ニシテ

又上野月金部ニ

おえ 悪口 甚ク

多シ

現地 梅子 下川 津

ノ 下川 梅子 下川 津

十四日 四月十一日

内務大臣

大果 五 裁 送 一 只

向 十 年 一 隻 一 只

ヲ 運 送 セ

輸 送 程 一 隻 一 只

目 的 決 定 上 思 想 上 覆 視

軍 隊 運 送 方 案

文 部 大 臣

十 年 一 隻 一 只

野 運 送 方 案

十四日 四月十一日

334

陸海軍省の  
任令所出  
本隊事務の花  
本夕隊事務  
已り同部  
為之

1. 国体教育(本部教育)  
2. 行政部  
国民生活  
早実生活  
右三件ノ交通  
信ノ準備

(甲) 六月十一日

右二店及行政  
變更

陸海軍省  
鼓吹部(文化)

国内之滞在  
待望 遊戯

B二苦言以  
1. 現況  
2. 依此生活  
居住  
庫地  
右二運搬

(乙) 五月十一日

④ 本土ノ状況ヲ予慮  
ニ次ノ件ヲ官民ニ  
準備ス

① 政府ノ以テ国民ノ  
避難

② 絶好優勢ノ定ムル

ニ至リテハ情報ヲ  
入手困難

民ノ潛入潜出ノ價位  
大ナリ

沖池作戦ノ在リハ  
此ノ作戦ノ在リハ  
情報ノ手困難ナリ

昭和六年八月十一日

① 日本人ノ精神  
情報ヲ奪フ

③ 食糧ノ確保

④ 直正ノ現投運報ノ  
出望

予リテハ戦ノ軍堂  
ニ不利ニ可合

又軍的トシ

五 政府ノ何ノ時及チ力

宣戦ニヨリ五〇年  
後ノ戦軍ヲ準備シ  
計画ヲセ 作戦計画

昭和七年七月十一日

Handwritten scribbles or marks on the right page.

十且無努力

神社

佛相

極少

三軍隊之結之態

消極的ニ協力

例

(一) 軍隊が軍から

我々が戦中一務中

ニ入りたりトスニ

傾キ多シ

(二) 学徒(防区)駐

貝丁リ

召集ニテ之ニ召集

六次ニ進テ帰リ

(金) 十月十日 召集解除一七〇

十且至

最後正我之居

一甲男物短

(何と他野ノ校長)

(三) 本籍人ノスル

甚多キリ格下全

ニテ潜入(本籍全)

目今追捕スルコトアリ

要請好ノ故ニ切斷

除丸ノ甲ア之金

ヤラセハ物質力分

テテ是ラシ又

何ヲテハテテ中分

(木) 九月十一日



(和曼)

十二所以経  
 〇 歌歌感  
 〇 軍記六、四歌  
 〇 風儀上 (多系)  
 〇 同経  
 〇 昔歌ノ最々  
 大ナル系因  
 竹相出後  
 84ノ内歌  
 大玉高直知  
 都悉切隨

□ 櫃進ニ係  
 之ニ下ニ官  
 屏角ニ  
 際山ノ下  
 瀬相奉  
 ×

子  
 子

種々の立見具甲  
 (上方の限念)  
 可おせこそノテリ  
 悲鳴のりアタレ  
 水ス  
 甲司念の常  
 二修心  
 本作の司念板ト  
 老深者ノ力ヲ  
 持テコトヘタリ  
 老深ハ皆自

三定老深ハ  
 立根トハ老深ノ  
 ○敵ノ物量  
 想像 疑ス  
 此ハ 苦我ノ  
 真相ハ物量  
 アラスレニ 敵  
 及作 半信  
 此ハ 敵ノ  
 以上 本日 読  
 執 読  
 老 深

2039





十一月二十日 (日)

- 四. 福吉 ↓ 台止 (2日)
- 三. 車方 ↓ 福吉 (2日)
- 二. 台止 ↓ 沖池 (1日)

内  
 ○ 就事指導と一考  
 ○ 内地作製等  
 ○ 井ノノ軍次

大車等  
 陸海軍用 ✓ 連絡  
 ○ 地上作製直協的  
 色彩極々濃  
 有るに般言作製、  
 実施  
 即チ特等艦砲  
 聯隊被也此天敵  
 之三番の艦上  
 砲也中砲(案)が  
 毎方方一二番(リ  
 以テ之ニ所艦  
 砲ヲ加)

十一月十九日 (日)

24 /

282

一 作 ( ) 身 ( ) 身 ( )

位 ( ) 理 ( ) 理 ( )

一 或 ( ) 字 ( ) 理 ( )

一 防 ( ) 作 ( ) 理 ( )

一 民 ( ) 理 ( ) 理 ( )

一 信 ( ) 理 ( ) 理 ( )

車 ( ) 理 ( )

一 理 ( ) 理 ( ) 理 ( )

↓ 理 ( )

理 ( ) 理 ( ) 理 ( )

理 ( ) 理 ( )

理 ( ) 理 ( )

理 ( )

二 理 ( ) 理 ( ) 理 ( )

理 ( ) 理 ( )

理 ( ) 理 ( ) 理 ( )

( )

冲冠拚人下，战事转  
 苦上，若志果改  
 一 精神的中枢 (神经  
 体) (八道) 亦  
 一 冲冠拚人下，战事转  
 苦上，若志果改  
 一 精神的中枢 (神经  
 体) (八道) 亦  
 一 冲冠拚人下，战事转  
 苦上，若志果改  
 一 精神的中枢 (神经  
 体) (八道) 亦

一 冲冠拚人下，战事转  
 苦上，若志果改  
 一 精神的中枢 (神经  
 体) (八道) 亦  
 一 冲冠拚人下，战事转  
 苦上，若志果改  
 一 精神的中枢 (神经  
 体) (八道) 亦

2  
 3  
 3

344

十倉市北方新町  
廣川善孝宛

一三六八九七  
一〇九八八三

大分縣速見郡  
中山香竹若菜宛  
佐藤正幸子宛  
二七九〇〇〇

熊本縣阿蘇郡  
永水村車馬  
坂口正幸子宛  
一〇〇〇〇〇〇

卯一五〇〇一〇〇〇  
十一月五日(日)

十一月廿六日(日)

聖地A B 件  
津美主人(勸進) 件  
柳良三又(件)  
宮本勤者(勸進) 件



226

はまのこを断せしむ

本日の本町の御様

に鑑み

○他は四半三流の

たんとすなり

○頭切のけしき

若千のちかし

は痛等とてし

あり、とて

以勢はより

借の五十六

に

○中世

まの世帯下

言え司令印に

悔ひ

二十改新

概と今く

却概に

申上と

柳子に

山背

は七

お

現

一、印は花は自由  
 車は後退せしめり  
 正法を以てする事、故部  
 擧ぐ、水あり、報に  
 擧ぐ、  
 此の如く、千枝にあり  
 運は、採り、下、段り  
 後、方、庭、断、妙、業、に  
 道、途、し、後、境、都、隊  
 前、の、道、野、の、固、難、去、り  
 此、の、如、く、今、と、し、は  
 何、業、中、の、道、更、ま、す、と、し、

理由は、後、進、も、苦、難  
 正、法、の、し、書、妙、妙、を  
 五、の、有、好、は、部、の  
 故、部、を、入、る、事、一、何、業、  
 獲、得、は、其、人、難、し  
 上、京、柳、子、亦、地、は、不  
 明、な、り、且、山、岳、固、の  
 我、力、を、散、に、成、す、せ  
 る、權、存、す、り  
 能、業、は、は、ま、る、に、何、業、  
 正、甲、也、よ、し、正、具、甲  
 可、と、し、る、事、あり  
 何、業、中、の、道、更、ま、す、と、し、

(出) 十二月二日

(出) 十一月二日

247



268

④ 本作の筆遣は

相寄りするもの筆法  
ありしとほしとを却  
降り女子筆法に相  
大勢の明細に筆遣  
せし上り持に  
左子持 右子持  
方面は以筆法  
可敵 攻筆に依り  
大なる印迹を考へ  
相寄りに来りし  
あると 思ふに  
十二月四日 (H)

ありしも筆遣の事  
ありし

⑤ 山女園は

予定りたる女子を  
州始  
天竺に上り作歌は  
明細に進歩あり  
正知の 印  
桐子、上り  
宗進好別巻の  
清き上り  
敵は相寄りの筆遣  
あると 思ふに  
十二月四日 (H)



一日一ヶ所をカウチ  
夜襲を命じんとす  
不敵を以て信じり

⑥ 右へ出くはくへ多し  
兵あり、指染、逆攻  
石山田へ我力ヲ指染  
之ヲ取除、弟次其の懸望  
ヲ字ヲ獲て其の懸望  
をん

⑦ 敵の陣地を  
奪取す行は早也  
十九日早攻第  
一隊は又宿野に上  
砲撃隊を以て我

(癸) 八月二十

260

相違行即ち拘束  
子次隊地ヲ全解  
に至り、以て石山田  
一隊斗ハ敵ヲ相違  
折衷ヲ予ハ三三  
より敵に攻勢懸  
此白山山田ヲ其方  
陸軍砲ヲ使用ス  
信我を信るは  
敵の心三三防  
三三防

⑧ 三三の陣  
陣地に於て

(癸) 八月二十



Handwritten scribbles or marks on the right page.

改年用船の四ヶ所の  
之率作以主任の思  
想に改勢絶対多并  
ミテ右命令全承服さ  
ルに軍司令官の  
八日艦長が年官施  
又スル所アリ(十日  
三)七口浦沖に  
百數十、船団アリ  
同方面に上陸し算  
アリトし一再に改勢  
トナル  
此に民攻勢の台海軍

司令官の命令に  
又軍司令官の  
以下一般に  
高柳より高尾  
セ古田が海軍  
又好々鳴る日  
ト一也買上  
ト一也死な  
改勢おとす  
正防軍に  
多ク敵ヲ殺戮  
十日に至り改勢  
依に改勢打倒  
再ニ官憲決意

十二月二十日 (水)

十一月二十日 (月)

20

改年用物、四ヶ合、  
之奉作、改、任、思  
想、改、勢、絶、多、持  
マテ、右、命、全、承、服、マ  
シ、  
八日、  
マ、  
百、  
同、  
ア、  
ハ、  
出、

○日二十月二十

司令官、  
又、  
以下、  
青、  
セ、  
又、  
ト、  
ト、  
改、  
正、  
多、  
十、  
依、  
再、

○日一月二十

之...  
 長...  
 清...  
 四月...  
 軍...  
 之...  
 二...  
 也...  
 以...  
 一...  
 七...  
 第...  
 軍...  
 一...

自信...  
 軍...  
 信...  
 二...  
 南...  
 改...  
 本...  
 功...  
 男...  
 ⑤...  
 三...  
 四...  
 事...  
 利...  
 城...

254





256

上陸作戦開始の  
判断は、その重要  
ト考へ、(あり)  
以て翌日二十四日  
艦砲射撃開始  
及て上陸準備  
完了、甲隊係  
二移

② 敵艦砲撃の最初  
西方海面及淺山正  
面を改去せり  
作戦定作、敵上陸予  
面、北甲隊、及

十二月十八日(月)

淺山正面に判断  
其方、北隊、南方  
に於て攻勢ヲ採  
決、夫、是、所  
アリ、即チ軍砲号  
一、陣地裏、敵、  
正面より、拒去、  
敵、正面、上陸、  
場合、正、面、得、  
是、正、面、上陸、  
二、隊、感、其、  
二、隊、又、海、  
正、面、隊、其、方、

(日) 甲午年十二月

257

林部新解

訓解一年林部

無カヤ

※防部思案一書

防部思案一書

防部思案一書

防部思案一書

防部思案一書

防部思案一書

防部思案一書

防部思案一書

防部思案一書

二作防部

防部思案一書

防部思案一書

防部思案一書

防部思案一書

防部思案一書

防部思案一書

防部思案一書

防部思案一書

防部思案一書

防部思案一書

防部思案一書

防部思案一書

其の如く之が年ヲ防過ニ  
 ントスルヤ  
 其子作戦ニ於テ切  
 断去ル其甲船ヲ切  
 断去ル極大ノ困難ナ  
 多ク  
 廣大ノ回方面防衛  
 強クノ要望ナシ  
 三ノ三ニ何等延置  
 ントナリは力ニ  
 加リ船主地退隊  
 可以テ隊本ニ特  
 隊ヲ以テ之ヲ  
 二進ナ  
 但ニ南都中ノ一  
 然之

十二月廿二日

其の如く之が年ヲ防過ニ  
 ントスルヤ  
 其子作戦ニ於テ切  
 断去ル其甲船ヲ切  
 断去ル極大ノ困難ナ  
 多ク  
 廣大ノ回方面防衛  
 強クノ要望ナシ  
 三ノ三ニ何等延置  
 ントナリは力ニ  
 加リ船主地退隊  
 可以テ隊本ニ特  
 隊ヲ以テ之ヲ  
 二進ナ  
 但ニ南都中ノ一  
 然之

十二月廿一日 (水)

二部より一其甲隊の分  
 方面ニ向テ敵ノ陸  
 進軍ヲ遲滞セシメ  
 其力ニ首尾知念ヲ  
 陸軍ニ使回ニ陣地ヲ  
 占領シ三軍ヲ防軍ヲ修  
 養シテ敵ニ出直ラシ  
 要セトラスニ在リ  
 軍ヲ修養シ長甲隊  
 有ニスルニ三軍ヲ防軍ナ  
 敵ノ上陸ヲ防ズルニ  
 力ニテ其軍ヲ修養シ即  
 三軍ノ防軍ニシテ敵ノ上陸  
 方面ヲ研究スルニ力ナリ

十二月廿四日(日)

結果ニテ攻勢ヲ去テ  
 敵ニ対テ砲ヲ近ク  
 砲ヲ打テテ近ク  
 ニ在リ  
 此ノ四思慮ニ作戦開始  
 前何事ヲ審議決定  
 ナルニトテ作戦  
 開始トシテ  
 ③其甲隊の防一準備  
 ニ関スル問題  
 有ニテ之平一任務  
 伊波隊上ニ在リ更ニ  
 之ヲ修養シテ敵ヲ修  
 其軍ヲ利用シ敵ノ上  
 防衛ニ力ナリ

十二月廿五日(土)





十二月廿八日 (木)

一、陸海軍一般本部  
 隊員の定員増加  
 一、元伏  
 二、新編の創案  
 百丁之ヲ作入  
 部隊ニ移ス  
 要

一、機動力隊子  
 二、再ニ定員増加  
 三、可成ニ

陸海軍一般本部

十二月廿八日 (木)

陸海軍一般本部  
 隊員の定員増加  
 一、元伏  
 二、新編の創案  
 百丁之ヲ作入  
 部隊ニ移ス  
 要

36 /

十二月三十日 (土)

十二月九日 (金)

一、  
 二、  
 三、  
 四、  
 五、  
 六、  
 七、  
 八、  
 九、  
 十、

2  
 2  
 2

269

次ニ予位ハ又勸業ノ  
約モ大トシテ  
高野ニハ陣取リ  
様ニシテノ事也

10. 夜宿ノ事ハ  
如キ相者アリカ  
己我カ相親モ又  
甚々之ヲ任事ノ  
折ニ致松ニ好ニ相  
好者(解部)也  
コナニカカト也  
也

11. 高村砲ヲ以テ  
地ト力ヲ増カ  
コ全因スル眞  
ニシテテテ  
ハニ限

古者大思ハ  
作テ思トテ  
用也テハ  
ノ跳子ハ  
微ニテテ  
利ニトニテ



